

2024年7月11日

学校法人三幸学園  
横浜リゾート&スポーツ専門学校  
校長 大石 進 殿

学校関係者評価委員会  
委員長 古田 祐実

### 学校関係者評価委員会実施報告

2023年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

#### 記

#### 1 学校関係者評価委員

- ① 古田 祐実 (株式会社 Strong Bonds)
- ② 山本 竜也 (株式会社 INSTRUCTIONS)
- ③ 佐々木 康人 (学校法人三幸学園 飛鳥未来高等学校)

#### 2 学校関係者評価委員会の開催状況

2024年6月28日 (会場 横浜リゾート&スポーツ専門学校 602教室)

#### 3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

# 2023年度 学校法人 三幸学園 横浜リゾート&スポーツ専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 渡邊 慧

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 古田 祐実

## 1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

## 2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

### ● 前年度重点施策振り返り

■教務強化ポイントを設定し、「挨拶」「報連相」「清掃」など生徒に意識させたい項目を掲示した。

#### ■退学防止

⇒生徒状況の早期報告(担任会議にて毎週報告し、講師にも共有をする)

⇒各学科に学科長を配置し、担任は気になる生徒状況を学科長に報告し、学科長同席のもと三者面談を行った。また、学科長間でも生徒状況共有を密に行った。

⇒通信制高校出身者へのサポート(リゾスポアドバンスの実施)

学習面や人間関係に不安を持つ生徒に対して、担任以外の教員からアプローチをかけていく対策として「リゾスポアドバンス」の実施。「勉強」「人間関係」「進路」に関する相談ができる機会を創出した。

#### ■キャリア対策の実施

⇒年間を通して、就職学年のみならず全学年対象にキャリア対策を実施した。卒業学年においては、校内説明会の開催や就職セミナーを定期的に行い就職活動におけるテクニック指導を行った。また進級学年においては、職業体験会や就職決起大会、合同企業説明会・模擬面接会の実施をした。

#### ■産学連携の強化

⇒DeNA様:公式試合のボディケアブース出展,トレーナー見学会の実施

⇒横浜FC様:インターンシップ実習の実施

⇒NECレッドロケッツ様:ホームゲームの設営サポートをボランティアとして行った

⇒川崎ブレイドサンダース様:インターンシップ実習の実施

⇒ルネサンス様:フィットネスクラブ体験会を実施し、入学初期に職業イメージをつけた

### 3.評価項目の達成及び取組状況

#### (1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

#### ① 課題

- 各学科の教育目標・育成人材像においては、作成時から時間が経っているため、中身のブラッシュアップが必要。
- 理念や人材育成像について、生徒及び教職員へこちらから一方的に伝えるばかりであるため、浸透には至っていないと感じる。
- 「各学科に対応する業界のニーズ」については、まず担任メンバーから知見を深める必要がある。

#### ② 今後の改善方策

- 2025年度入学生からカリキュラムが変更となるため、人材育成像も見直しを行う予定としている。
- 全体会議等にてなぜ人材育成像等の設定背景や、その目標と現状のギャップ・改善策について等、ディスカッション等をする機会を持つ。
- 業界ニーズを把握するため、専門人材の配置や、専門家から業界の動向を知る機会を設けていく。

#### ③ 特記事項

なし

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

なし

## (2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

### ① 課題

なし

### ② 今後の改善方策

なし

### ③ 特記事項

- コンプライアンス体制整備のため、年2回全体会議内でハラスメント研修を実施している。
- 問題となりそうな案件がある場合は、該当者と責任者にて面談を実施し、共通認識を図り、抑止に努めている。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

### (3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

#### ① 課題

- 一部学科における実習への動機づけに改善が必要
- 企業と連携した教員の確保
- 関連分野における知識・技能向上に向けた取り組みが不足

#### ② 今後の改善方策

- 実習における教育効果の可視化と生徒への動機付けの工夫が必要
- 専門人材の配置(NESTA との連携)
- 企業と連携した定期的な教員研修を実施する。

#### ③ 特記事項

- 授業アンケート項目の中で、特に部門として力を入れていきたいものを提示し、統一認識を図った。
- 全体会議にて、授業力の高い講師から授業力向上研修を行った。

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

山本委員：学生時代には、経験によって気づけるものがあったため、今の学生にも様々な現場に参加したほうが良いという点は授業の中でも伝えている。入学時、やりたいことが明確で目標設定ができている生徒には響くが、目的・目標が不明瞭なまま入学をしている生徒には響いていない現状がある。

山本委員：入学直後の職業体験会の実施については、体感するだけではなく指導経験をした方が良い。

古田委員：職業体験会などを通して、外に触れる機会は創出したほうが良いが、参加人数の調整は必要である。自主性は大事にしたいが、経験を積ませる観点で考えると必須参加と任意参加どちらも設定したほうが良い。

古田委員：現場を知らないことで各科目が紐づいていない可能性があり、やらされ感を感じることもある。そのため、初期の段階での職業体験やダイジェスト学習はインパクトがあるが、期間が経つに連れてインパクトも薄れるため、維持するための施策が必要。

佐々木委員：2022 年度から高等学校も新しい学習指導要領となり、答えをインプットする学習方法から、生徒が自ら課題を見つけ、主体的に判断する力を養う指導方法に変わった。

山本委員：9 年前の授業(在学中)では暗記することが多かったが、現在の授業においては、適宜考えさせ、発言する時間を多くとるように心がけている。

今村教務主任：実習への参加希望が年々減少している状況があるが、生徒の気持ちの変化やキャッチしている情報、委員の方が考えられる要因があれば教えてほしい。

山本委員：情報社会のため、実習に参加しなくても自分は知っているというスタンスでいる。また、参加することに対してネガティブな考えもある。

佐々木委員：実習に参加する期間が異なるとクラスによっても希望者数に差が出るのではないかと。

渡邊副校長：現状は、実習期間は設けているが参加するタイミングは実習先によって異なる。姉妹校は実習期間を 3 週間定めて、対象者が同じ期間で実習に参加するように設定されている。実習に限らず、業界内アルバイトでも良いが経験する機会はあると良い。

山本委員：実習に関してはマイナスな印象を抱いている生徒が多いが、目先の利益ではなく、長い目で見て得られるものを考えられると良い。

大石校長：現代の学生は情報社会の中で生活をしている点と入学して安心してしまっている状況がある。職場見学だけではなく、経験を積めるように生徒の背中を押ししていく必要がある。

#### (4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2

##### ① 課題

- 主要資格の合格率は年々高くなってきているが、姉妹校と比較した時にはまだまだ伸びしろがある。
- 前年度と比べると退学率は下がっているものの、退学率の目標数値(6.0%以下)に対して、最終目標数字を上回ってしまった(2023年度退学率 7.6%)
- 卒業生の状況把握や卒業後のキャリア形成のためのサポートが不足している。

##### ② 今後の改善方策

- 合格率向上のための対策は今年度も継続して実施する
- クラス環境や友人関係での退学を防止するために、クラス会の実施を5月末～6月で各クラス実施する。
- 卒業後のキャリア形成においては、シラバスの改善やテキストの改編を行った。
- 定期的な企業訪問や、同窓会の機会を活用し卒業生とのつながりを作る。

##### ③ 特記事項

なし

##### ④ 学校関係者評価委員会コメント

山本委員:今後、各資格の受験については選択制と変わっていくが、資格取得に関わる科目は残るため、本人の選択次第で授業に対しての取り組み方に差が出てくることが懸念されるのではない。

渡邊副校長:後は資格対策科目の履修についても、大学同様に科目を選択していくシステムに変更していくことを検討中である。これまでは、各資格受験を必須で運用していたが、将来を見据えた際に資格の取得が不要である生徒や資格の必要性を感じていない生徒も多くなり、合格率が伸びていない現状もある。個のキャリアに合わせて受験の有無を選択できるように変更していく流れとなる。

古田委員:企業訪問だけでなく、OBOG訪問は意識的にできているのか。卒業生が繋がれるネットワークのようなものがあると、永年的に繋がれるのではないか。

山本委員:卒業生同士の繋がりも、卒業直後はあったが今はほとんどない。

渡邊副校長:三幸学園にも三幸 Link という卒業生向けのHPはあるが、なかなか機能させ切れていないのが現状である。今後は、卒業生支援を充実させるために全国姉妹校合同でプロジェクトを組んで施策を実施する予定である。

## (5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

### ① 課題

- 学生相談に関する体制が整備されていなかった。23年度はスクールカウンセラー制度があったものの、相談場所が姉妹校であったため、利用者が少なかった。
- 卒業生への支援体制が整備されていない。

### ② 今後の改善方策

- 週に1日常駐のスクールカウンセラーを配置し、生徒が相談しやすい環境を設定する。
- SANKO リンク(同窓会 HP)を活用し、卒業生プラットフォームの構築を進めていく。

### ③ 特記事項

なし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

佐藤教務主任: 月曜日に2枠設定しているが、ほぼ毎週1枠は埋まっているため、保健室のような感覚で利用している生徒がいる。姉妹校からの参加もあるため、ニーズは確実にある。



## (6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

### ① 課題

- 防災、安全管理に対する体制整備

### ② 今後の改善方策

- 生徒への避難訓練指導の実施
- 備蓄の整備
- 2階マシンルームのマシン老朽化に伴い

### ③ 特記事項

なし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

山本委員:昨年まで各クラスに掲示されていた、授業を受ける側の三原則のようなルールを掲示していただきたい。

渡邊副校長:今年度は教務方針の中で三原則を掲げていたが、今年度はないため授業環境を整えるという観点で何かできないか検討する。

## (7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

### ① 課題

なし

### ② 今後の改善方策

なし

### ③ 特記事項

なし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

佐々木委員：大学進学に向いている生徒、専門学校進学に向いている生徒とはどのような生徒か。

大石校長：スポーツが好き、なりたいものが明確、目的がある生徒は専門学校で学んだほうが良い。

古田委員：新設するダンスパフォーマンスコースの将来性として、現状のダンス界はダンスだけで食べていくのは難しい。その為、ダンスをしながらピラティスやヨガなどの資格取得をする方も多くいる。リゾスポの魅力は、在学中からしっかりと体の構造や、資格取得ができる場所の為、そこを前面に伝えていく広報ができると保護者の不安も解消されるのではないかと。

## (8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

### ① 課題

なし

### ② 今後の改善方法

#### 【中期計画】

今期は第2次中期計画(2018年度～2022年度)の達成状況等の公開と同時に、第3次中期計画(2023年度～2027年度)を公開する予定である。

### ③ 特記事項

なし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

なし

## (9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

### ① 課題

- 更なる法令遵守の推進。
- 個人情報の取り扱いについては、今後も周知徹底していく必要がある。

### ② 今後の改善方策

- 教職員会議や掲示物を通じて、法令遵守に対する啓蒙を継続的に図る。

### ③ 特記事項

- 平成 26 年度 自己評価結果より公開開始

### ⑤ 学校関係者評価委員会コメント

なし

## (10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

### ① 課題

- 一般の方向けの公開講座が少ない。

### ② 今後の改善方策

- 地域貢献につながる公開講座を積極的に実施していく。

### ③ 特記事項

- ボランティア活動については積極的に取り組んでいる。スポーツイベント支援、スポーツチーム支援、幼児スポーツ支援等を中心に様々な活動を実施している。特にリゾスポ大陸では、月に2回ほど学校のスタジオに地域の子どもたちを呼び、生徒たちが有志で参加し、幼児体育指導を行っている。実際に授業で学んだことをアウトプットできる場であり、地域貢献にも繋がっている。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

山本委員：産学連携活動として行っている横浜 DNA ベイスターズで行っている、ストレッチブースのような学びをアウトプットできる活動には積極的に参加できると生徒の学びに直結するのではないかと。野球だけでなく、Bリーグやアメフトなど他の競技でも参画できるのが理想。

## 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

教育面の退学については、前年度より改善傾向が見られたが、引き続き学生にとってより良い学びに繋がるよう工夫し取り組んでいく。広報面においても、今回頂いたヒントを元に取り入れられそうなことを整理し、現状に合わせ柔軟に対応していく。